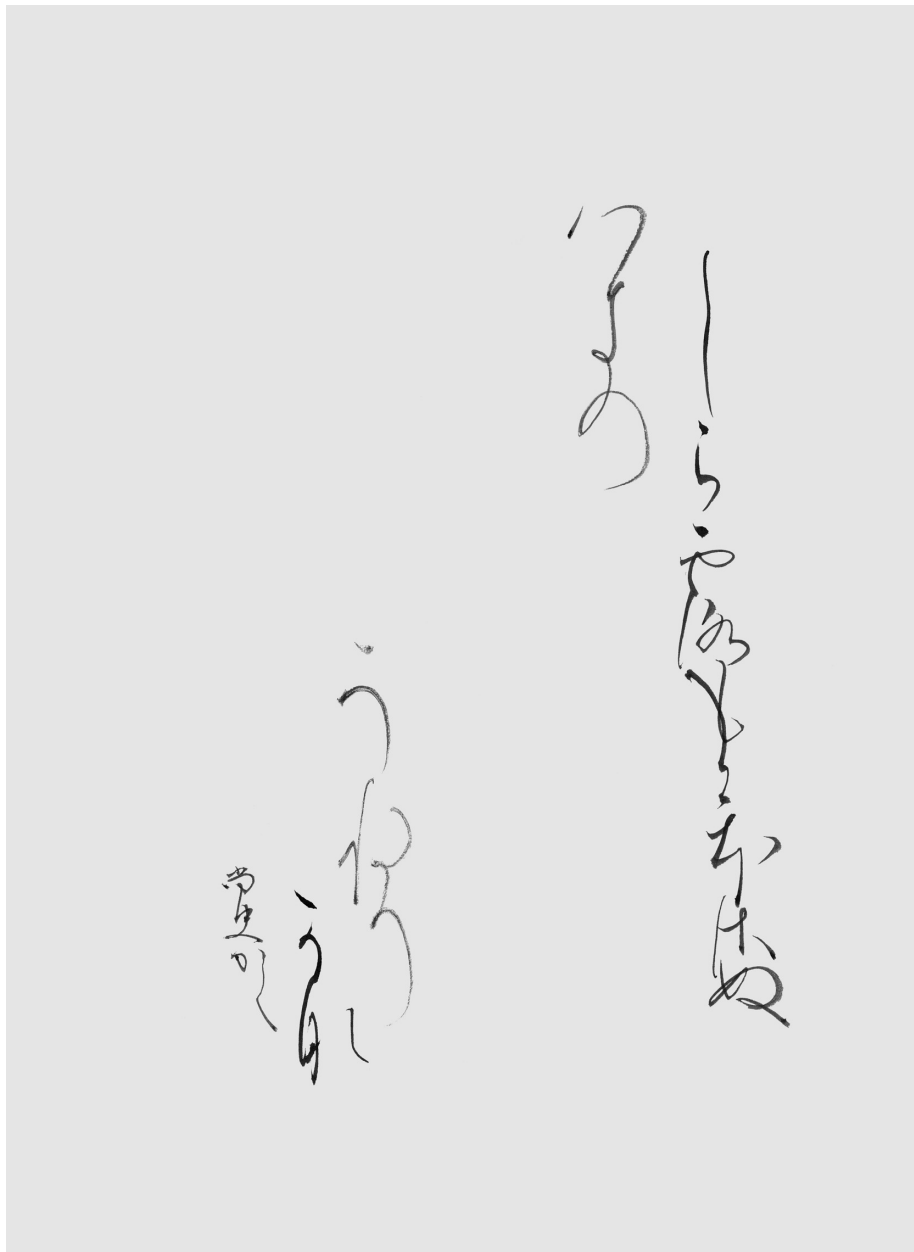


高・大・一般（仮名有級・準初段まで）

熊坂 尚史

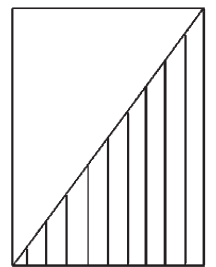


〈釈文〉しら露もこぼさぬはきのうねりかな可那
 〈訳〉萩の花枝が風に揺れてうねりながらも、白露をこぼすまいとしていることだ。

（角川ソフィア文庫『芭蕉全句集』）



※図版は「本阿弥切古今和歌集」より



基本的な筆使いで俳句を書きながらやさしく仮名を学びましょう。

仮名初心者の方は、ぜひ本誌選択毛筆「仮名入門」にも挑戦してください。

・「露も」…「露」は関戸本古今和歌集や本阿弥切で効果的な使用例が見られます。無理に連綿せず「も」の二筆目を太めに書いて、縦への流れを強調します。

・「こ本」…「こ」の二つの横画と「本」の始筆でリズムよく「韻をふむ」意識で書きます。

「本」の斜線のバランスに注意しましょう。

・「佐ぬ」…「佐」の三筆目の縦画を「本」の縦画に沿わせると、空間が整理されて安定感が出ます。字間を詰めて密度を高め、柱となる一行目を支えます。

・「ねり」…中心移動をして後に続く「可那」を入れやすく工夫しています。

・行頭や墨付け後の「可」を書くときには一画目の点が必要です。

・墨付けは「し」と「可」の二か所です。

・濃淡潤濁をしっかりとつけて、立体感のある作品に仕上げましょう。

・落款の位置や傾きも参考にしてください。

〈用具用材について〉

紙…提出用紙は半紙縦（およそ縦33cm×横24cm）

ロール紙を推奨します（無ければ滲まない半紙）。

落款は「○○」（下の名前）かくとします。

高・大・一般 漢字

新(10級から五段までは作品用紙として画仙紙ハツ切り(68cm×17.5cm)又は、画仙紙半切(136cm×35cm)のみの出品です。
六段から八段までは作品用紙として従来通り画仙紙半切(136cm×35cm)のみの出品です。

石坂 雅彦

善用兵者 修道而保
故能為 勝敗之政

雅彦



〈釈文〉善用兵者 修道而保法 故能為勝敗之政

〈読み〉善く兵を用うる者は、道を修めて法を

保つ。故に能く勝敗の政を為す。

〈大意〉戦上手は、政治を立派に行ない、軍

制をよく守る。だから勝敗を決するこ

とができる。

〈出典〉『孫子』第四形篇

〈目的〉鄧石如風の隸書で二行にまとめよう。

すると字数は一五文字前後になる。ということ
で撰文に入った。

何となく手にしたのが孫子の兵法だった。毎
日のようにニュースで世界中の戦争を知らされ

るのでその影響かと思う。何の意図もなく字数
だけを気にして撰んだ。

〈字調べ〉北川博邦編『清人篆隸字彙』(雄山

閣)を使って調べてみると、「修」「敗」の二文

字だけが鄧石如が書いた例が無い。鄧石如を尊

敬するとともに、その篆隸を熱心に勉強したと

いう吳熙載の書例にはこの二文字があったので

それを使うことにした。

〈表現〉鄧石如の隸書の模写を作るわけではな

いので、余り細かいことに拘らずに鄧石如のイ

メージを大切に書いて。

字並びは右左の字頭を揃え、また上下の字
幅をだいたい揃え、字画の疎密による文字の丈
の変化を大小の変化としてみた。

墨量は多めにし、線の厚みと重量感を意識
した。渴筆を使い過ぎると、その目的から離れ
るので控目にした。

作品制作に入る前に、鄧石如の隸書を徹底的
に臨書するとか、お気に入りの鄧石如隸書手本
をジックリ眺めるとかして、数日かけてイメー
ジを確り抱き、そのイメージに触発されて書
くことをお勧めします。